

断る力

浪人中、何とか大学に進学したいと思った。
勉強に打ち込む寮生活。
夜、九時過ぎに別部屋の友達がドアをノックする。
ノックの音が3回、部屋の中に響く。
返事はしない、ドアのカギはかけていた。
もう一度、友達がノックをする。
返事はしない。
すると、友達はドアの前から去っていった。
そのとき、初めて自分を優先して、断ることをしたような気がする。



私が今、タイムマシンに乗って20代後半の自分にたった一つアドバイスをするとしたら、『断る力』を一瞬も早く、身につけること』と言うでしょう。(勝間和代)

終業式、始業式より

終業式では、全国小学生陸上競技大会において、種目：コンバイン（走り高跳び、80MH）で7位に入賞した6年男子、〇〇さんへのインタビューを通して、「どうして全国7位に入賞することができたのか。」ということみんなで考えました。子供たちの多くは、「目標に向かって努力したから」という意見が多数でした。



松本さんに、「どうして全国7位になれたのか」と尋ねると「お父さんやお母さんの応援やコーチの指導があったからです。」と答えました。

そこで、相手の気持ちや思いを「素直」に受け入れ、「はい」と返事をする事の大切さについて話しました。

始業式では、2年生2名、5年生1名の子供たちにモデルとなってもらい「あいさつ」の様々なケースで、そのときの気持ちを考えました。

ケース1：あいさつをしてあいさつを返してもらったとき、もらえなかったときの気持ちの違い

2年：返してもらったときは「うれしい」、返してもらえなかったときは「悲しい」

ケース2：あいさつを自分からしたときと相手からされたときの気持ちの違い

5年：された時はうれしい、自分からしたときはすっきりする

この2つのことから、あいさつをされて返さないと相手は心が傷つくこと、自分からあいさつをすると、自分の気持ちを相手に伝えることができることを話しました。

現在、登校時の挨拶が、大変よくなっています。中里小学校のあいさつも目標は「自分からあいさつ」です。今後も継続的に子供たちに声を掛けていきたいと思いました。また、地域でのあいさつもがんばるように話しています。

校内研究 2

組	3年1組	3年2組	3年3組
教材	すがたをかえる大豆 (れいの書かれ方に気をつけて読み, それをいかして書こう)	すがたをかえる大豆 (れいの書かれ方に気をつけて読み, それをいかして書こう)	すがたをかえる大豆 (れいの書かれ方に気をつけて読み, それをいかして書こう)
日時	10月7日(水)3校時	10月5日(月)1校時	10月6日(火)1校時
様子			

説明文の「はじめ・中・終わり」の文章構成において、「中」のまとまりにも、筆者の考えを相手に分かりやすく伝えるための様々な工夫があります。今回は、「中」の大豆料理の例「やわらかくした大豆」「きなこ」「とうふ」「納豆・みそ・しょうゆ」「枝豆・もやし」をどのような順序であげているか、そのために「つなぎ言葉」をどのように使っているか、を考える学習です。子供たちは、ジャムボードのカードを画面タッチで動かしながら、様々なパターンを考えていました。自分の考えを友達に伝え、考えを深めることができました。

3年生の子供たちは、すでにローマ字入力に取り組んでいます。授業研究に参加していた教育委員会の先生方も、3年生のタブレット端末の慣れた操作に感心されていました。

スマートスクール SASEBO



ネット・電子メディア利用
よる9じまで

ネット・電子メディア利用「ながさき基準」・夜9時まで

長崎っ子的ためのメディア環境協議会

青少年がネットや電子メディアに適切に関わりながら、人の育ちにおいてかけがえのない子ども財を築くように育つ環境を築くことは、情報社会が進展する時代に生きる私たち大人の責務です。県民各位のご理解とご協力をお願いします。

【事務局】長崎県庁4-1長崎県庁5階 長崎県青少年育成委員会内 ☎095-434-7510 ✉mail: n-kenminkai@room.ocn.ne.jp

始業式の後の時間に「オンラインゲームやSNS」の使い方について、生活指導の先生よりお話がありました。内容は、ネット上の「仲間外し」「使用時間」「言葉使い」のことです。普段の日常生活においては、子供たちも許されないことと分かっていますが、はたしてネット上ではどうかということを考える時間でした。

ネット上での相手との距離感がつかめず、何でも許される世界と思っている子供もいるのではないのでしょうか。ネット上の書き込みは、思っていること以上に感情的な表現になることがあります。そのトラブルが学校生活の人間関係にも影響する場合があります。また、オンラインゲームや動画鑑賞を途中でやめられず、生活のリズムを壊し、集中できず、いらいらのために学校生活のトラブルにつながる場合もあります。

デジタル化が急速に進む社会において、ICT利用は避けて通れない時代となってきています。子供たちが生きていくこれからの社会を考えたとき、ICT を使いこなす力が必要になるはずで、そこで、高学年の段階で、友達等の様々な誘いを「断る力」も必要になるような気がします。

